

Ⅲ. 調査結果の要約

1 区の施策および評価について

(1) 住みごこち (本文65ページ)

練馬区の住みごこちを聞いたところ、「住みよい」(41.3%)が4割を超え、「まあ住みよい」(53.1%)が5割を超えており、この2つを合わせた『肯定的評価』(94.4%)が9割半ばとなっている。一方、「あまり住みよくない」(3.4%)と「住みにくい」(0.5%)を合わせた『否定的評価』(3.9%)はわずかとなっている。

(2) 練馬区が住みよいと感じるところ (本文70ページ)

練馬区が住みよいと感じるところを聞いたところ、「みどりが豊かで環境がよい」(49.8%)が5割で最も多く、次いで「治安が比較的よい」(48.2%)、「買い物がしやすい」(48.0%)、「交通の便がよい」(38.2%)、「防災の面で比較的安心である」(20.2%)などの順となっている。

(3) 練馬区が住みにくいとと感じるところ (本文74ページ)

練馬区が住みにくいとと感じるところを聞いたところ、「交通の便が悪い」(20.9%)が約2割で最も多く、次いで「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」(16.0%)、「近隣と疎遠で地域住民の関係が希薄である」(12.9%)、「買い物が不便である」(12.7%)、「働く場所があまりない」(12.0%)などの順となっている。

(4) 定住意向 (本文78ページ)

これからも引き続き練馬区に住みたいと思うか聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(39.9%)と「当分は住み続けたい」(36.2%)を合わせた『定住意向』(76.1%)が7割半ばとなっている。一方、「できれば区外へ移りたい」(4.0%)と「区外へ移りたい」(0.8%)を合わせた『転出意向』(4.9%)はわずかとなっている。

(5) 練馬区への愛着 (本文82ページ)

練馬区に愛着を感じるか聞いたところ、「愛着を感じる」(35.0%)と「どちらかという愛着を感じる」(41.2%)を合わせた、愛着を『感じる』(76.3%)が7割半ばとなっている。一方、「どちらかという愛着を感じない」(6.1%)と「愛着を感じない」(3.0%)を合わせた、愛着を『感じない』(9.2%)は約1割となっている。

(6) 練馬区に対する誇り (本文86ページ)

練馬区に住んでいることに誇りを感じるか聞いたところ、「誇りを感じる」(12.6%)と「どちらかという誇りを感じる」(33.4%)を合わせた、誇りを『感じる』(46.0%)が4割半ばとなっている。一方、「どちらかという誇りを感じない」(9.3%)と「誇りを感じない」(7.7%)を合わせた、誇りを『感じない』(17.1%)は2割近くとなっている。

(7) 区施策への満足度と必要性

(本文91・93ページ)

満足度について『満足評価』と『不満評価』のそれぞれの上位5項目は以下のようになっている。

『満足評価』上位5項目		『不満評価』上位5項目	
①みどりの保全と創出	(76.0%)	①交通安全対策	(52.4%)
②健康づくりの推進	(75.1%)	②区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり	(44.0%)
③都市農業の振興と都市農地の保全	(68.9%)	③駅周辺のまちづくり	(43.4%)
④循環型社会づくり	(67.9%)	④鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	(40.1%)
⑤子育て支援	(67.3%)	④観光の推進	(40.1%)

必要性について『必要性が高い評価』と『必要性が低い評価』のそれぞれの上位5項目は以下のようになっている。

『必要性が高い評価』上位5項目		『必要性が低い評価』上位5項目	
①医療環境の充実	(87.4%)	①観光の推進	(39.6%)
②交通安全対策	(85.4%)	②地域活動の活性化と多文化共生社会の実現	(35.3%)
③災害に強い安全なまちづくり	(84.8%)	③平和と人権の尊重、男女共同参画の推進	(30.1%)
④高齢者福祉	(82.3%)	④文化・生涯学習・スポーツの振興	(29.1%)
④健康づくりの推進	(82.3%)	⑤都市農業の振興と都市農地の保全	(27.7%)

(8) 施策への要望

(本文102ページ)

特に力を入れてほしい施策を第1位から第3位まで挙げてもらった。その3つを合わせた累計をみると、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」(23.8%)が2割を超えて最も多く、次いで「医療環境の充実」(20.0%)、「交通安全対策」(18.7%)、「高齢者福祉」(16.4%)、「子育て支援」(15.6%)などの順となっている。

(9) 区政情報の入手先

(本文112ページ)

区政の情報を主に何から入手しているか聞いたところ、「ねりま区報」(56.1%)が5割半ばで最も多く、次いで「区ホームページ(携帯サイトを含む)」(43.6%)、「わたしの便利帳」(13.0%)、「区の施設・窓口にあるポスターやチラシ」(9.3%)などの順となっている。

(10) 『ねりま区報』の閲読度

(本文114ページ)

『ねりま区報』をどの程度読んでいるか聞いたところ、「詳しく読んでいる」(10.3%)と「必要な記事は読んでいる」(42.0%)を合わせた『読んでいる』(52.3%)が5割を超えている。一方、「あまり読んでいない」(16.9%)と「まったく読んでいない」(27.1%)を合わせた『読んでいない』(44.0%)は4割半ばとなっている。

(10-1) 『ねりま区報』の満足度

(本文117ページ)

『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方(621人)に、『ねりま区報』にどの程度満足しているか聞いたところ、「とても満足している」(6.9%)と「満足している」(76.8%)を合わせた『満足評価』(83.7%)が8割を超えている。一方、「あまり満足していない」(14.5%)と「満足していない」(0.0%)を合わせた『不満評価』(14.5%)は1割半ばとなっている。

(10-2) 『ねりま区報』の入手手段

(本文120ページ)

『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方(621人)に、『ねりま区報』の入手手段を聞いたところ、「新聞折り込みで入手している」(70.7%)が約7割で最も多く、次いで「駅・コンビニエンスストア・区立施設などで入手している」(24.8%)、「パソコン・スマートフォンなどで閲覧している」(5.6%)、「区報送付サービスで入手している」(3.9%)の順となっている。

(10-3) 『ねりま区報』でよく閲覧している記事

(本文122ページ)

『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方(621人)に、『ねりま区報』でよく閲覧している記事を聞いたところ、「『お知らせ』『講座・催し』『高齢者』『健康・衛生』『子ども・教育』などのお知らせ」(74.1%)が7割半ばで最も多く、次いで「1面の記事」(47.7%)、「医療関係機関のお知らせ記事」(37.0%)、「2面や最終面などの特集面」(20.0%)などの順となっている。

(10-4) 『ねりま区報』を読んでいない理由

(本文124ページ)

『ねりま区報』を「あまり読んでいない」または「まったく読んでいない」と答えた方(523人)に、その理由を聞いたところ、「新聞を購読していない」(52.0%)が5割を超えて最も多く、次いで「入手方法がわからない」(31.0%)、「必要な記事がない」(16.8%)などの順となっている。

(11) 『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容(企画)

(本文126ページ)

『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容(企画)を聞いたところ、「区立施設の紹介」(40.4%)が4割で最も多く、次いで「区が推進している施策の詳しい紹介」(34.3%)、「区内の名所・公園の紹介」(28.5%)、「区民や地域で活動する団体の紹介」(20.4%)などの順となっている。

(12) 『ねりま区報』の配布方法の意向 (本文129ページ)

『ねりま区報』の配布方法の意向を聞いたところ、「今のままでよい」(68.8%)が7割近くで最も多く、次いで「全世帯に配布すべき」(12.6%)、「送付サービスをもっと拡大すべき」(6.8%)、「配布施設をもっと増やすべき」(6.7%)の順となっている。

(13) 『ねりま区報』の発行回数の意向 (本文132ページ)

『ねりま区報』の発行回数の意向を聞いたところ、「今のままでよい(月3回)」(53.6%)が5割を超えて最も多く、次いで「月1回にすべき」(20.2%)、「月2回にすべき」(19.7%)、「毎週発行など回数を増やすべき」(0.6%)の順となっている。

(14) 『ねりま区報』の情報量の意向 (本文135ページ)

『ねりま区報』の情報量の意向を聞いたところ、「今のままでよい」(81.2%)が8割を超えて最も多く、次いで「もっと減らすべき」(7.2%)、「もっと増やすべき」(4.2%)の順となっている。

(15) 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の認知度 (本文137ページ)

練馬区情報番組『ねりまほっとライン』を知っているか聞いたところ、「知っている」(28.6%)が3割近く、「知らない」(67.8%)は7割近くとなっている。

(15-1) 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の視聴度 (本文139ページ)

練馬区情報番組『ねりまほっとライン』を「知っている」と答えた方(340人)に、番組の視聴度を聞いたところ、「いつも(ほぼ毎回)見ている」(3.2%)と「興味のある内容のときだけ見ている」(40.9%)を合わせた『見ている』(44.1%)が4割半ばとなっている。一方、「見ていない」(55.0%)は5割半ばとなっている。

(16) 『区ホームページ』の閲覧状況 (本文141ページ)

『区ホームページ』の閲覧状況を聞いたところ、「よく見ている」(2.7%)と「必要に応じて見ている」(46.0%)を合わせた『見ている』(48.7%)が5割近くとなっている。一方、「ほとんど見ていない」(35.9%)が3割半ば、「見られる環境がない」(4.9%)はわずかとなっている。

(16-1) 『区ホームページ』の閲覧情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度 (本文143ページ)

『区ホームページ』を「よく見ている」または「必要に応じて見ている」と答えた方(578人)に、閲覧している情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度を聞いたところ、「とても満足している」(5.0%)と「満足している」(57.4%)を合わせた『満足評価』(62.5%)が6割を超えている。一方、「あまり満足していない」(30.6%)と「満足していない」(4.8%)を合わせた『不満評価』(35.5%)は3割半ばとなっている。

(16-2) 『区ホームページ』の閲覧時に主に利用している機器 (本文145ページ)

『区ホームページ』を「よく見ている」または「必要に応じて見ている」と答えた方(578人)に、閲覧時に主に利用している機器を聞いたところ、「スマートフォン(高性能携帯電話)」(55.0%)が5割半ばで最も多く、次いで「パソコン」(33.0%)、「携帯電話」(5.9%)、「タブレット」(3.6%)などの順となっている。

(17) 知っている練馬区公式SNSアカウント (本文147ページ)

知っている練馬区公式SNSアカウントを聞いたところ、「Twitter」(14.4%)が1割半ばで最も多く、次いで「LINE」(10.5%)、「YouTube」(6.1%)、「Facebook」(5.8%)の順となっている。一方、「知っているものはない」(63.5%)は6割を超えている。

(18) 区がSNSを活用して情報発信を行うこと (本文149ページ)

区がSNSを活用して情報発信を行うことについて聞いたところ、「積極的に活用すべき」(38.0%)と「どちらかという活用すべき」(27.5%)を合わせた『活用すべき』(65.5%)が6割半ばとなっている。一方、「どちらかという活用すべきではない」(1.4%)と「活用すべきではない」(1.3%)を合わせた『活用すべきではない』(2.7%)はわずかとなっている。

(19) 『わたしの便利帳』の所有状況 (本文151ページ)

『わたしの便利帳』の所有状況を聞いたところ、「ある」(67.4%)が7割近く、「ない」(14.2%)は1割半ばとなっている。

(19-1) 『わたしの便利帳』の利用頻度 (本文153ページ)

自宅に『わたしの便利帳』が「ある」と答えた方(801人)に、便利帳の利用頻度を聞いたところ、「頻繁に利用する」(1.4%)、「月に数回程度は利用する」(5.6%)、「年に数回程度は利用する」(31.2%)の3つを合わせた『利用する』(38.2%)が4割近くとなっている。一方、「以前は利用したが、最近では利用していない」(23.0%)が2割を超え、「利用していない」(36.2%)は3割半ばとなっている。

2 新型コロナウイルス感染症について

(1) 新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手経路 (本文155ページ)

新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手経路を聞いたところ、「テレビやラジオ」(89.0%)が約9割で最も多く、次いで「新聞」(37.0%)、「政府や東京都、練馬区など行政機関のホームページ」(29.7%)、「家族や友人からの話」(22.2%)などの順となっている。

(2) 新型コロナウイルス感染症に対して不安を感じる程度 (本文157ページ)

新型コロナウイルス感染症に対してどの程度不安を感じているか聞いたところ、「強く感じている」(53.0%)、「感じている」(31.5%)、「少しは感じている」(13.6%)の3つを合わせた『不安を感じている』(98.1%)が10割近くとなっている。一方、「感じていない」(1.4%)はわずかとなっている。

(3) 新型コロナウイルスワクチンの接種状況・今後の接種意向 (本文159ページ)

新型コロナウイルスワクチンの接種状況または今後の接種の意向を聞いたところ、「すでに接種した」(64.8%)が6割半ばで多くなっている。「これから接種する予定」(21.7%)が2割を超え、「もう少し様子を見て判断したい」(10.0%)は1割、「接種したくない」(2.6%)はわずかとなっている。

(3-1) 新型コロナウイルスワクチンを接種したいと思わない理由 (本文161ページ)

新型コロナウイルスワクチンの接種について「もう少し様子を見て判断したい」または「接種したくない」と答えた方(150人)に、接種したいと思わない理由を聞いたところ、「将来、健康被害が生じるのではないかと不安だから」(27.3%)が3割近くで最も多く、次いで「副反応が心配だから」(24.7%)、「接種予約が取りにくいから」(14.7%)、「効果に疑問があるから」(12.0%)などの順となっている。

(3-2) 新型コロナウイルスワクチン接種について疑問や不安を抱くようになった要因 (本文163ページ)

新型コロナウイルスワクチンの接種について「効果に疑問があるから」、「副反応が心配だから」、「将来、健康被害が生じるのではないかと不安だから」と答えた方(96人)に、どのような情報に接して、疑問や不安を抱くようになったか聞いたところ、「テレビやラジオ」(44.8%)が4割半ばで最も多く、次いで「SNS(TwitterやFacebookなど)の情報」(15.6%)、「家族や友人からの話」(12.5%)などの順となっている。

(4) 新型コロナウイルス感染症に関連して区に望む取り組み (本文165ページ)

新型コロナウイルス感染症に関連して区に望む取り組みを聞いたところ、「ワクチン接種体制の充実」(70.8%)が約7割で最も多く、次いで「生活が苦しくなった方への支援」(42.3%)、「経営が苦しくなった事業者への支援」(32.2%)、「新型コロナウイルスに関する情報発信」(28.1%)、「様々な行政手続のオンライン化の推進」(22.1%)などの順となっている。

3 デジタル化の取り組みについて

(1) 情報通信機器の利用状況

(本文167ページ)

情報通信機器の利用状況を聞いたところ、「頻繁に利用している」と「時々利用している」を合わせた『利用している』は、“スマートフォン”（82.5%）で8割を超えて最も多く、次いで“パソコン”（66.7%）、“タブレット”（36.4%）の順となっている。

(1-1) パソコン、スマートフォン、タブレットの知識の習得

(本文171ページ)

パソコン、スマートフォン、タブレットのいずれかで「頻繁に利用している」または「時々利用している」と答えた方（1,034人）に、どのように知識を習得したか聞いたところ、「書籍や雑誌、インターネットで自分で調べる」（61.6%）が6割を超えて最も多く、次いで「家族や友人・知人に聞く」（54.5%）、「職場や学校などの詳しい人に聞く」（26.1%）、「購入した店舗に聞く」（13.3%）などの順となっている。

(1-2) パソコン、スマートフォン、タブレットを利用しない理由

(本文173ページ)

パソコン、スマートフォン、タブレットのいずれかで「利用していない。今後も利用する予定はない」と答えた方（412人）に、利用しない理由を聞いたところ、「利用する必要性を感じないから」（60.2%）が6割で最も多く、次いで「購入費や通信費の負担が大きいから」（18.2%）、「機器の操作方法や設定方法などがわからないから」（15.3%）、「セキュリティに不安があるから」（5.8%）などの順となっている。

(2) インターネットの利用方法や情報モラル、セキュリティに関する講習会への参加意向

(本文175ページ)

インターネットの利用方法や情報モラル、セキュリティに関する講習会があれば参加したいか聞いたところ、「参加したい」（7.8%）と「どちらかというに参加したい」（17.3%）を合わせた『参加したい』（25.2%）が2割半ばとなっている。一方、「どちらかというに参加したくない」（15.7%）と「参加したくない」（31.7%）を合わせた『参加したくない』（47.5%）は5割近くとなっている。

(3) インターネット上のデジタルサービスの利用状況

(本文177ページ)

インターネット上のデジタルサービスの利用状況を聞いたところ、「ほぼ毎日利用している」は、“各種ウェブサイトの閲覧、情報の検索”（68.1%）で7割近くと最も多く、次いで“電子メール”（55.1%）、“テキストによるチャット通信（LINEなど）”（52.1%）などの順となっている。

「週に2～3回程度利用する」は、“無料通話・ビデオ通話（LINE、FaceTime、Skypeなど）”（17.8%）で2割近くと最も多く、次いで“商品・サービスの購入”（16.0%）などの順となっている。

「利用したことがない」は、“オンラインゲーム”（52.4%）で5割を超えて最も多く、次いで“金融取引（インターネットバンキング、証券取引など）”（50.2%）、“公共機関への電子申請・電子申告”（49.7%）などの順となっている。

(4) 公衆無線LAN (Wi-Fi) の利用状況

(本文191ページ)

公衆無線LAN (Wi-Fi) の利用状況を聞いたところ、「利用したことがある」(58.8%)が6割近く、「利用したことはない」(30.8%)は約3割となっている。また、「公衆無線LAN (Wi-Fi) がどのようなものかわからない」(7.2%)は1割未満となっている。

(4-1) 公衆無線LAN (Wi-Fi) を利用する場所

(本文193ページ)

公衆無線LAN (Wi-Fi) を「利用したことがある」と答えた方(699人)に、よく利用する場所を聞いたところ、「ホテルなど宿泊施設」(62.7%)が6割を超えて最も多く、次いで「レストラン・カフェ」(59.8%)、「電車・バスなどの車内」(35.3%)、「コンビニ・デパート・ショッピングモール」(28.6%)などの順となっている。

(4-2) 公衆無線LAN (Wi-Fi) を利用しない理由

(本文195ページ)

公衆無線LAN (Wi-Fi) を「利用したことはない」と答えた方(366人)に、利用しない理由を聞いたところ、「利用する必要性がない」(43.2%)が4割を超えて最も多く、次いで「セキュリティに不安がある」(39.6%)、「利用方法がわからない」(30.9%)、「利用できる場所を知らない」(17.5%)などの順となっている。

(5) 利用しているキャッシュレス決済

(本文197ページ)

利用しているキャッシュレス決済を聞いたところ、「クレジットカード」(71.7%)が7割を超えて最も多く、次いで「交通系電子マネー (Suica、PASMOなど)」(54.5%)、「QRコード決済・バーコード決済 (PayPay、LINE Payなど)」(32.5%)、「流通系電子マネー (WAON、nanaco、楽天Edyなど)」(18.4%)などの順となっている。

(5-1) QRコード決済・バーコード決済で利用頻度が高い決済方法

(本文199ページ)

利用しているキャッシュレス決済で「QRコード決済・バーコード決済」と答えた方(386人)に、普段利用している決済方法を利用頻度が高い順に聞いたところ、1番目では「PayPay」(50.8%)が約5割で最も多く、次いで「d払い」(15.3%)、「au Pay」(9.3%)、「楽天ペイ」(8.8%)などの順となっている。

また、1番目と2番目を合わせた累計をみると、「PayPay」(61.1%)が6割を超えて最も多く、次いで「d払い」(22.3%)、「楽天ペイ」(16.6%)、「LINE Pay」(13.0%)などの順となっている。

(5-2) QRコード決済・バーコード決済を利用する場所

(本文201ページ)

利用しているキャッシュレス決済で「QRコード決済・バーコード決済」と答えた方(386人)に、普段利用している場所を聞いたところ、「コンビニ」(85.0%)が8割半ばで最も多く、次いで「スーパー」(60.9%)、「飲食店」(52.3%)、「商店街などの個人店」(17.4%)などの順となっている。

(5-3) キャッシュレス決済を利用していない理由 (本文203ページ)

キャッシュレス決済を「利用していない」と答えた方(154人)に、利用していない理由を聞いたところ、「利用する必要性がない」(54.5%)が5割半ばで最も多く、次いで「個人情報流出・不正利用などが不安」(41.6%)、「お金を使っている感覚が薄れ、使いすぎてしまう」(38.3%)、「利用方法がわからない」(31.8%)などの順となっている。

(6) 社会のデジタル化に期待すること (本文205ページ)

社会のデジタル化に期待することを聞いたところ、「必要な情報が入手しやすくなる」(65.2%)が6割半ばで最も多く、次いで「データの利活用により、自分に合ったサービスが受けられるようになる」(43.4%)、「移動が減り、日常生活に時間的な余裕が増える」(36.6%)、「新たな価値やサービスが生まれ、経済が活性化する」(31.5%)などの順となっている。

(7) 社会のデジタル化が進むことで不安に感じること (本文207ページ)

社会のデジタル化が進むことで不安に感じることを聞いたところ、「個人情報の流出やプライバシーの侵害などのリスクが増大する」(70.8%)が約7割で最も多く、次いで「デジタル化に対応できない人に情報格差(デジタルデバインド)が生じる」(54.1%)、「人と人との対面コミュニケーションが希薄化してしまう」(35.3%)、「機器の購入や通信費などの負担が増える」(26.6%)などの順となっている。

(8) 企業や行政サービスのデジタル化 (本文209ページ)

企業や行政サービスのデジタル化について聞いたところ、「積極的に進めるべき」(42.9%)と「どちらかというに進めるべき」(33.8%)を合わせた『進めるべき』(76.8%)が8割近くとなっている。一方、「どちらかというに進めるべきではない」(3.8%)と「進めるべきではない」(0.8%)を合わせた『進めるべきではない』(4.6%)はわずかとなっている。

(9) マイナンバーカードの所有状況 (本文211ページ)

マイナンバーカードの所有状況を聞いたところ、「持っている」(51.9%)が5割を超えて多くなっている。「交付を申請している」(3.1%)はわずかで、「持っていないが、今後交付を申請したい」(17.3%)は2割近くとなっている。一方、「持っていない。今後も交付を申請しない」(25.6%)は2割半ばとなっている。

(9-1) 希望するマイナンバーカードの利用方法 (本文213ページ)

マイナンバーカードを「持っている」、「交付を申請している」、「持っていないが、今後交付を申請したい」と答えた方(859人)に、マイナンバーカードの利用方法を聞いたところ、「本人確認のための身分証明書」(70.8%)が約7割で最も多く、次いで「コンビニエンスストアでの住民票の写しや課税証明の発行」(49.1%)、「インターネットを通じた各種手続き・届出」(28.3%)、「健康保険証としての利用(令和3年10月から本格運用開始予定)」(24.1%)などの順となっている。

(9-2) マイナンバーカードの交付を申請しない理由

(本文215ページ)

マイナンバーカードを「持っていない。今後も交付を申請しない」と答えた方(304人)に、交付を申請しない理由を聞いたところ、「取得する必要性を感じないから」(68.1%)が7割近くで最も多く、次いで「身分証明書は、他のものを利用するから」(53.3%)、「個人情報の漏洩が心配だから」(47.4%)、「紛失や盗難が心配だから」(26.3%)などの順となっている。

(10) 区が行っているデジタルサービスの利用状況

(本文217ページ)

区が行っているデジタルサービスの利用状況を聞いたところ、「利用したことがある」は、“図書館の書籍予約サービス”(19.8%)で2割と最も多く、次いで“公共施設のインターネット予約”(16.1%)、“申請・届出やイベント・講座への申込みなどの電子申請”(14.4%)などの順となっている。

「知っているが、利用したことはない」は、“公共施設のインターネット予約”(40.3%)で4割と最も多く、次いで“申請・届出やイベント・講座への申込みなどの電子申請”(39.2%)、“住民税・国民健康保険料などの支払方法のキャッシュレス化”(37.5%)などの順となっている。

「知らない」は、“練馬区ねりまちレポーター制度”(85.7%)と“健康アプリ「ねりまちてくてくサプリ」の配信”(84.4%)で8割半ばと多く、次いで“LINEを活用した保活支援サービス”(82.5%)などの順となっている。

(11) 区のデジタル化の取り組みで力を入れてほしい分野

(本文230ページ)

区のデジタル化の取り組みで力を入れてほしい分野を聞いたところ、「自然災害や感染症に関する情報など、緊急情報の迅速な提供」(68.9%)が7割近くで最も多く、次いで「高齢者みんな健康プロジェクトのような、区が保有するデータを利用した、区民一人ひとりに合ったサービスや支援」(25.7%)、「区役所・区立施設への公衆無線LAN(Wi-Fi)設置などの通信インフラ整備」(21.9%)、「区役所・区立施設におけるキャッシュレス決済への対応」(20.8%)などの順となっている。

(12) 区の窓口でキャッシュレス決済が導入された場合に利用したいもの

(本文232ページ)

区の窓口でキャッシュレス決済が導入された場合に利用したいものを聞いたところ、「各種証明書を発行する際の手数料」(54.7%)が5割半ばで最も多く、次いで「税金や各種保険料」(42.4%)、「駐車場や自転車駐車場の使用料」(26.0%)、「会議室、文化施設、スポーツ施設等の窓口で支払う使用料」(15.9%)などの順となっている。一方、「使いたくないと思わない」(22.8%)は2割を超えている。

(13) 図書館で取り組んでほしいデジタルサービス

(本文234ページ)

図書館で取り組んでほしいデジタルサービスを聞いたところ、「電子書籍の貸出し」(41.5%)が4割を超えて最も多く、次いで「音楽の配信サービス」(20.9%)、「複数書籍を一括貸出しできるICタグによるセルフ貸出しサービス」(15.6%)、「各地域の文化(歴史、自然等)に関する資料の保存」(12.5%)などの順となっている。一方、「特になし」(31.5%)は3割を超えている。